

世界に誇れる石巻地域に

耕人塾10周年 記念式典 復興後も人材育成欠かさず

中高校生の人間力を育む「耕人塾」(木村民男塾長)の10周年記念式典が5日、東松島市の矢本東市民センターで開かれた。塾生やOB、OG、運営委員ら約80人が出席。講演やトークセッションで10年間の歩みを振り返りながら「世界に誇れる石巻地域の創造」に向けた人材育成を改めて共有した。

耕人塾は、元東松島市教育長だった木村氏が石巻専修大学勤務となったのを機に平成24年に立ち上げた。地域社会に貢献できる高い志を持った人材を育成することを目的に毎年実施。地域で活躍する講師を迎えた講話やごみ拾い運動、ワークショップを通じ、塾生となる中高校生の育成

につなげている。

地域の教育関係者が運営委員を務め、教員として同大学人間学部の学生や小中学校教諭、企業、団体が協力。これまで約280人の塾生が巣立った。記念式典では木村塾長が10年間の歩みを回顧。「復興とこれからのまちづくりには地域の若者の人材育成が欠

かせない。またそれに要するエネルギーも大変大きい。趣旨に賛同し協力してくれたからこそ、10年間継続して来られた」と感謝した。

塾生の心身を育む上で欠かせない3つの柱「あいさつ、清掃、ごみ拾い」は設立当時から変わらない。「世界に誇れる石巻地域にするため、柱

の活動をさらに充実させ、輪を広げていきたい」と思いを語った。

その後、元耕人塾指導委員長の平塚真一郎さん(矢本一中校長)が「被災地に種まく人々」と題して記念講演。塾生、OB、OGらは「耕人塾は被災地にどんな花を咲かせたか」と題したトークセッションも開いた。

【山口紘史】



10年間継続できた感謝を述べる木村塾長